

# Newsletter

—学会会報—

The Japanese Society for Curriculum Studies

発行：日本カリキュラム学会事務局

## 目 次

〈理事会報告 (2016 年 7 月 1 日)〉

- I. 総会議事について
- II. 各種委員会の 2015 年度活動報告および 2016 年度活動計画について
- III. 30 周年記念事業の準備について
- IV. 次期大会開催校について
- V. その他
- VI. 事務局報告
- VII. その他

〈総会報告 (2016 年 7 月 3 日)〉

- I. 会則の一部改正について
- II. 第 26 回大会年度(2015 年度)活動報告
- III. 第 27 回大会年度(2016 年度)活動方針
- IV. 第 28 回大会(2017 年度)開催校について

〈研究奨励賞授与式 (2016 年 7 月 3 日)〉

〈第 27 回大会報告 (2016 年 7 月 2・3 日)〉

『カリキュラム研究』第 26 号・論文投稿先のご案内

〈第 7 回研究集会報告〉

〈「秋のセミナー2016」のご案内〉

〈事務局からのお知らせ〉

---

## 理事会報告 (2016 年 3 月 6 日)

---

定例理事会が 7 月 1 日 (金) 15 時 00 分から 17 時 30 分まで、サンポートホール高松 55 会議室にて開催されました。理事 22 名に加えて、大会開催校 (香川大学教育学部附属高松小学校・香川大学教育学部) より、北林雅洋大会実行委員長が参加されました。

### I 総会議事について

総会議事について審議が行われた (詳細は〈総会報告〉を参照)。「セミナー (秋のセミナー)」

の呼称について事務局にて検討することになった。2016年度予算について、「30周年記念事業準備費」として30万円計上することになった。

## II 各種委員会の2015年度活動報告および2016年度活動計画について

### 1. 紀要編集委員会

・橋本委員長より活動報告（学会誌『カリキュラム研究』第25号の審査および発行）・活動計画（『カリキュラム研究』第26号編集）について説明された。また、J-Stageへの移行に伴い引用文献一覧の記載等かなりの作業が必要となるため、学会誌の発行を依頼している城島印刷に委託すること、また、執筆者にも注以外に引用文献リストを付けるよう依頼することが説明された。さらに、学会誌第25号で初めて試みた〈特集〉（大会のシンポジウムあるいは課題研究のうち2課題分を選択し登壇者に執筆を依頼）の継続の是非について、意義、内容、事務量の観点から審議され、意義は認められたものの編集体制上の課題（事務量の多さ、研究・広報委員会と編集委員会の負担の大きさ）により第26号の〈特集〉掲載は見送り、第27号以降については検討課題とすることになった。

・その代わりに、シンポジウムや課題研究の記録を残す別の方法として、発表要旨に加筆修正を行い、学会誌に掲載することになった。

### 2. 国際交流委員会

的場委員長より活動報告（課題研究の課題・報告者の決定など）について説明された。活動計画について、学会誌第26号に海外カリキュラム研究情報（Michael F. D. Youngの寄稿を依頼）を掲載予定であることなどが説明された。

### 3. 研究・広報委員会

天笠委員長より活動報告・活動計画について説明された。内容は、大会の課題研究の企画・実施、研究集会開催、「セミナー」開催、学会誌における〈特集〉の掲載の審議過程等である。今年度の「セミナー」は、「秋のセミナー2016」として11月5日（土）午後に実施することとされた。

### 4. 研究奨励賞審査委員会

橋本委員長より、選考経緯の説明ならびに授賞候補者（寺田佳孝会員）の推薦がなされ、承認された。

授賞対象となったのは以下の著作である。

寺田佳孝『ドイツの外交・安全保障政策の教育－平和研究に基づく新たな批判的観点の探求－』（風間書房，2014年11月30日刊）

## III 30周年記念事業の準備について

長尾代表理事より、準備状況および構想案について説明がなされた。30周年記念事業は、単行本の刊行という形で行われる予定である。

#### IV 次期大会開催校について

長尾代表理事より、岡山大学が開催校とされることが報告された。日程は未定であり、次回理事会で決定される予定である。

#### V その他

松下事務局長より、課題研究・シンポジウム・セミナー・研究集会の登壇者に対する旅費・謝金・執筆料の支払いの原則について提案がなされ一部修正の上、承認された。

#### VI 事務局報告

##### 1. 会員現況報告

会員総数 700 名（一般会員 613 名、学生会員 80 名、団体会員 7 件）

※ 連絡先不明者 13 名、会員一時資格停止者 38 名を含む。

注：昨年同時期は、会員総数 689 名（一般会員 600 名、学生会員 82 名、団体会員 7 件）

・新規入会者（2016 年 2 月 24 日～6 月 16 日）32 名

	入会年月日	氏名	所属	区分	推薦者
1	2016/2/25	安江 真由美	岐阜大学大学院	学生	松永洋介
2	2016/3/3	上野 秀人	弘前大学	一般	事務局
3	2016/3/29	遠藤 宏美	宮崎大学	一般	事務局
4	2016/4/1	関内 偉一郎	※所属非公開希望	学生	事務局
5	2016/4/1	竹内 久顕	東京女子大学	一般	事務局
6	2016/4/1	深谷 圭助	中部大学	一般	豊田ひさき
7	2016/4/1	高橋 和夫	岩手大学	一般	事務局
8	2016/4/1	田本 正一	※所属非公開希望	一般	事務局
9	2016/4/1	石見 容子	※所属非公開希望	一般	事務局
10	2016/4/1	(株)紀伊國屋書店 和雑誌アクセスセンター	※所属非公開希望	定期購読	
11	2016/4/5	鄭 谷心	※所属非公開希望	一般	事務局
12	2016/4/6	堤 文	※所属非公開希望	一般	事務局
13	2016/4/11	山本 銀兵	※所属非公開希望	学生	事務局
14	2016/4/12	内田 卓雄	沼津市教育委員会	一般	吉富芳正
15	2016/4/13	黒田 友紀	日本大学理工学部	一般	事務局
16	2016/4/14	長島 康雄	※所属非公開希望	一般	小泉祥一
17	2016/4/14	瀬川 朗	※所属非公開希望	学生	事務局
18	2016/4/16	高浪 雅洋	東京大学	学生	崔 英姫
19	2016/4/19	植松 千喜	東京大学大学院教育学研究科	学生	事務局
20	2016/4/20	次橋 秀樹	※所属非公開希望	学生	事務局

21	2016/4/23	福岡 和歌子	堺市立熊野小学校	一般	石原 陽子
22	2016/4/25	田中 千晴	九州大学大学院	学生	田上 哲
23	2016/5/6	于 凱麗	※所属非公開希望	学生	野澤有希
24	2016/5/6	鶴田 百々	九州大学大学院	学生	田上 哲
25	2016/5/6	谷 智子	高知学園短期大学	一般	村川雅弘
26	2016/5/9	青木 寛典	※所属非公開希望	一般	石原陽子
27	2016/5/11	小袋 澄夫	※所属非公開希望	一般	事務局
28	2016/5/11	鉦 悠介	※所属非公開希望	学生	事務局
29	2016/5/26	須本 良夫	※所属非公開希望	一般	無し
30	2016/5/30	歌川 光一	※所属非公開希望	一般	事務局
31	2016/6/7	山本 ベバリーアン	※所属非公開希望	一般	赤星まゆみ
32	2016/6/7	山中 剛	※所属非公開希望	一般	倉本哲男

・退会者(2016年2月24日～6月16日) 23名

	退会日	氏名	所属	区分
1	2016/3/4	南山大学 図書館	※所属非公開希望	定期購読
2	2016/3/31	金丸 晃二	関西学院大学	一般
3	2016/3/31	高田 喜久司	新潟工科大学	一般
4	2016/3/31	榊原 充	常滑市立南陵中学校	一般
5	2016/3/31	梶原 郁郎	愛媛大学教育学部	一般
6	2016/3/31	小島 律子	大阪教育大学	一般
7	2016/3/31	峰添 奈津子	平戸市立平戸小学校	一般
8	2016/3/31	松本 浩司	名古屋学院大学経済学部	一般
9	2016/3/31	松田 智子	京都光華女子大学短期大学部こども保育学科	一般
10	2016/3/31	西巻 悦子	※所属非公開希望	学生
11	2016/3/31	藤村 法子	京都教育大学	一般
12	2016/3/31	宮本 浩紀	早稲田大学大学院教育学研究科	学生
13	2016/3/31	大西 慶一	大阪女子短期大学	一般
14	2016/3/31	三浦 和美	東北福祉大学	一般
15	2016/3/31	石井 俊行	※所属非公開希望	一般
16	2016/5/13	荒井 紀子	福井大学 教育地域科学部	一般
17	2016/5/13	櫛田 眞澄	白鷗大学教育学部	一般
18	2016/5/19	余公 裕次	※所属非公開希望	学生
19	2016/5/19	余公 敏子	※所属非公開希望	学生
20	2016/5/30	橋戸 雅夫	聖徳大学 教職大学院 教職研究科	一般
21	2016/5/31	武嶋 俊行		一般

22	2016/6/10	高須 一	玉川大学	一般
23	2016/6/13	鬼木 勝	横浜市立美しが丘中学校	一般

## 2. 寄贈図書等一覧

(詳細は「事務局からのお知らせ」を参照)

## 3. 会計監査について

6月26日(日)に、会計処理を委託している国際文献社において、事務局の富士原紀絵幹事、松下佳代事務局長の立ち会いの下、監事の吉富芳正会員、関根明伸会員によって監査が行われ、帳簿帳票との照合によって、会計上の処理が適正に行われていることが確認された。

## VII その他

次期理事及び代表理事選挙の日程が確認された。

### \* 次回理事会

日時：11月5日(土)

会場：お茶の水女子大学

---

---

## 総会報告（2016年7月3日）

---

---

2016年7月3日（日）、12時20分から13時10分まで、香川大学教育学部415講義室において、北林雅洋大会実行委員長（香川大学教育学部附属高松小学校長、香川大学教育学部教授）、桑原敏典会員（岡山大学教育学部教授）を議長団として、総会が開催された。これにおいて、7月1日（金）の理事会で承認された議案が、すべて承認された。

### I. 第26回大会年度（2015年度）活動報告

#### （1）一般活動報告

##### ①現況概要（2016年6月16日現在）

会員総数 700名（一般会員 613名、学生会員 80名、団体会員 7件）

\*うち、会員資格停止者 38名、連絡先不明 7名を含む

会費納入状況 2015年度分の納入率 94.4%（昨年度 92.8%、一昨年度 87.9%）

##### ②第26回大会報告

参加者 255名。会報第69号にて既報。

##### ③学会誌『カリキュラム研究』第25号発行

##### ④会報第68・69・70号発行

##### ⑤学会研究奨励賞選考結果

寺田佳孝会員

『ドイツの外交・安全保障政策の教育 —平和研究に基づく新たな批判的観点の探求—』

（風間書房、2014年11月30日刊）

##### ⑥会員勧誘の結果（2015年度内）

新入会員 41名（参考：昨年度 29名、一昨年度 18名）

##### ⑦秋のセミナー2015の開催

日時：2015年10月25日（日）

場所：お茶の水女子大学

テーマ：「アクティブ・ラーニングを考える」

発表者：新宿区立大久保小学校、埼玉県戸田市立笹目中学校、岩手県立盛岡第三高等学校

##### ⑧第7回研究集会の開催

日時：2016年3月19日（土）

場所：京都教育大学

発表者：細尾萌子（近畿大学）

「フランスの学力評価から学ぶ—コンピテンシー・アプローチの可能性と課題—」

黒田拓志（香川大学教育学部附属高松小学校）

「分かち合い、共に未来を創造する子どもの育成

—2領域カリキュラムによる主体的、共感・協同的、創造的な学びの実現—」

##### ⑨30周年記念事業の準備

⑩その他

(2) 2015年度決算報告・監査報告

2016年6月26日

日本カリキュラム学会  
第26回大会年度(2015年度)決算報告書  
(2015年4月1日～2016年3月31日)

収入の部

項目	予算額(円)	決算額(円)
学会年会費	4,504,500	5,125,000
入会金	40,000	82,000
学会誌代・雑収入・利子等	30,000	60,690
第26回大会収入(除く補助費)	1,500,000	1,368,500
前年度繰越金	5,509,440	5,509,440
合計	11,583,940	12,145,630

支出の部

項目	予算額(円)	決算額(円)
第26回大会補助費	650,000	650,000
第26回大会費用(除く補助費)	1,500,000	1,368,500
第25号紀要刊行費(含む発送費)	450,000	600,154
会合費(含む交通費)	900,000	839,081
事務局経費	150,000	32,521
事務局外部委託費	1,500,000	1,537,492
ホームページ委託運用費	150,000	129,600
財)日本学術協力財団賛助会費	50,000	50,000
教育関連学会連絡協議会会費	10,000	10,000
各種委員会経費		
紀要編集委員会	300,000	89,110
国際交流委員会	150,000	31,200
研究・広報委員会	300,000	273,929
研究奨励賞審査委員会	150,000	63,820
(小計)	900,000	458,059
予備費	200,000	108,000
次年度繰越金	5,123,940	6,362,223
合計	11,583,940	12,145,630

本簿について監査しました。

吉富芳正 

関根明伸 

## Ⅱ. 第27回大会年度（2016年度）活動方針案について

### （1）一般方針

- ①年次大会（第27回大会）の実施
- ②第28回大会の準備
- ③学会誌『カリキュラム研究』第26号発行
- ④学会研究奨励賞の選考
- ⑤秋のセミナー2016の開催

日時：2016年11月5日（土）午後

場所：お茶の水女子大学

テーマ：「カリキュラム・マネジメントを考える」

発表者：未定

- ⑥第8回研究集会の開催
- ⑦会報、その他の広報活動
- ⑧会員勧誘
- ⑨30周年記念事業の準備
- ⑩その他

### （2）2016年度予算案

第27回大会年度(2016年度)予算案(2016年4月1日～2017年3月31日)

#### 収入の部

項目	予算額(円)	備考
学会年会費	4,500,000	会費納入率90%で概算
入会金	40,000	20名見込み
学会誌代・雑収入・利子等	30,000	
第27回大会収入(除く補助費)	1,350,000	第26回大会実績にもとづく
寄付	0	
前年度繰越金	6,362,223	
合計	12,282,223	



## 支出の部

項目	予算額(円)	備考
第27回大会補助費	650,000	執行済
第27回大会支出(除く補助費)	1,350,000	第26回大会実績にもとづく
第26号紀要刊行費(含む発送費)	700,000	J-STAGE掲載経費を含む
学会研究奨励賞費	50,000	2016.7.3に授賞式を執行
会合費(含む交通費)	900,000	
事務局経費	100,000	
事務局外部委託費	1,600,000	
ホームページ委託運用費	250,000	アーカイブ経費を含む
財)日本学術協力財団賛助会費	50,000	執行済
教育関連学会連絡協議会会費	10,000	執行済
各種委員会経費		
紀要編集委員会	150,000	
国際交流委員会	100,000	
研究・広報委員会	300,000	
研究奨励賞審査委員会	100,000	
(小計)	650,000	
30周年記念事業準備費	300,000	
理事・代表理事選挙経費	50,000	第1回打ち合わせ費用として
予備費	200,000	
次年度繰越金	5,422,223	
合計	12,282,223	

### Ⅲ. 第28回大会(2017年度)開催校について

場所：岡山大学

日時：6月下旬または7月上旬

---

## 研究奨励賞授与式(2016年7月3日)

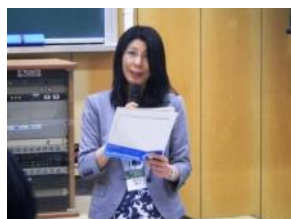
---

総会終了後、寺田佳孝会員の研究奨励賞の授賞式が執り行われました。

2015年度の日本カリキュラム学会研究奨励賞は、寺田佳孝氏(『ドイツの外交・安全保障政策の教育—平和研究に基づく新たな批判的観点の探求—』風間書房、2014年11月30日刊)に授与されました。

本書は、外交・安全保障に関わる諸問題を合理的・倫理的に判断して行動する市民をいかに育てるかという、平和教育の古くて新しい課題に取り組むための考え方を、この分野で先進国と目される戦後ドイツの平和研究と平和教育のなかに探し出そうとした労作です。

2016年7月2・3日に香川大学で開催された第27回大会において授与式が執り行われ、長尾彰夫代表理事より寺田氏に賞状および副賞が手渡されました。



授賞理由の説明  
(橋本研究奨励賞委員長)



賞状授与  
(長尾代表理事から寺田氏へ)



受賞スピーチ  
(寺田佳孝氏)

---

---

## 第27回大会報告 (2016年7月2・3日)

---

---

皆様方にご協力いただき、日本カリキュラム学会第27回大会が盛会裏に終えられましたことに心より感謝申し上げます。次期学習指導要領の全面改訂をはじめとした大きな教育改革の最中に、本学で全国大会を挙行できましたことを誠に光栄に存じます。また、本大会は研究と現場の実践をつなげることを一つのテーマとして本学教育学部附属高松小学校と共同で開催してきたことも画期的な取り組みだったのではないかと思います。

大会には、267名の方々が参会してくださいました(公開シンポジウムのみへの参加者を含めると300名を超えます)。自由研究発表、課題研究、公開シンポジウム、懇親会と、全体にわたって非常に活発な意見交換と研究交流が繰り広げられ、実行委員会一同、大変嬉しく思っています。自由研究発表は、大変多くのご参加をいただき、65件、19部会に分かれて発表いただきました。各部会3~4件の発表となり、どの部会も熱心な議論が展開されました。

課題研究は、いずれも教育改革に関する今日的なテーマが扱われました。課題研究□は「カリキュラム研究からみたアクティブ・ラーニングの検討」(コーディネーター：藤川聡・村川雅弘・西岡加名恵)、課題研究□は「現代社会における主権者教育の課題を問う」(コーディネーター：片上宗二・的場正美)、課題研究□では「現代日本の教育課程政策における政治・行政・経営をめぐる諸課題(その2)―中央教育審議会における政策形成過程の検討を中心として―」(コーディネーター：小泉祥一・石田有記)、課題研究IVでは、「PISAの批判的再検討―国際比較学力調査のポリティクス」(コーディネーター：澤田稔・浅沼茂)と題して、提案者による発表がなされ、指定討論やフロアとのやりとりを通じて、それぞれのテーマに対する議論が深められました。また、公開シンポジウムでは「授業を研究する、カリキュラムを研究する～附属高松小学校の授業実践をもとにして～」をテーマに附属高松小学校で公開された3本の授業をもとに、授業とカリキュラムをつなぐ視点について具体的な議論が展開されました。

本大会が我が国の教育課程の研究・実践に少しでも貢献できたならば幸いです。また、議論されましたことが次回大会以降に引き継がれ、より実り多きものになることをお祈り申し上げます。

大会運営において至らないところが多々ありご迷惑をおかけしたかと思いますが、おかげさまをもちまして、無事に終えることができました。ひとえに皆様のご理解とご協力の賜物と改めて感謝申し上げます次第です。また、大会を支えてくださった大会実行委員の方々、手伝ってくれた約40名の大学院生・学生の皆さん、その他ご支援を賜った全ての方々に心より御礼申し上げます。

(香川大学教育学部・同附属高松小学校長 北林雅洋)

---

---

## 『カリキュラム研究』第26号・論文投稿先のご案内

---

---

『カリキュラム研究』第26号(2017年3月刊行予定)の論文投稿先は以下の通りです。

〒305-0006 茨城県つくば市天王台1-1-1  
筑波大学人間系(教育)気付  
日本カリキュラム学会 紀要編集委員会事務局

第25号記載の[投稿要領]、[投稿にあたっての注意]を熟読願います。  
投稿原稿の締め切りは9月末日(当日消印有効)です。

会員の皆様の積極的な投稿をお待ちしております。

---

---

## 第 7 回研究集会報告

---

---

第 7 回研究集会は、2016 年 3 月 19 日（土）（13：30－16：30）に、京都教育大学で開催された。年度末の時期にもかかわらず、参加者は 31 名で、比較的多くの方に参加していただいた。北は北海道教育大学から南は佐賀大学まで、とりわけ、次期大会校の香川大学教育学部附属高松小学校から 5 名、地元京都や周辺地域の大学からも参加していただいた。

細尾萌子会員（近畿大学）（「フランスの学力評価から学ぶ ―コンピテンシー・アプローチの可能性と課題―」）と黒田拓志会員（香川大学教育学部附属高松小学校）（「分かち合い、共に未来を創造する子どもの育成 ―2 領域カリキュラムによる主体的、共感・協同的、創造的な学びの実現―」）による発表内容はどちらもきわめて重要な現代的課題であり、貴重な教訓を示していただくとともに、参加者からも多くの鋭い質問や意見をいただき、たいへん有意義な会となった。

今後、研究集会については、お気づきの点や開催日程等に工夫を加え、意欲的な研究発表に対して質問や意見もより多くいただけるように進めていきたい。

司会の労を取っていただいた中野和光（美作大学）、黒田拓志の両会員、会場校としてきめ細やかなお世話をいただいた徳永俊太会員（京都教育大学）に感謝します。（発表内容については、学会紀要『カリキュラム研究』第 26 号に掲載予定の第 7 回研究集会報告参照）。

（研究・広報委員会 小泉祥一）

---

---

## 「秋のセミナー2016」のご案内

---

---

平成 28 年 8 月

### 日本カリキュラム学会主催 「秋のセミナー2016」のご案内

## 「カリキュラム・マネジメントを考える」

日本カリキュラム学会代表理事：長尾彰夫

同学会研究・広報委員会委員長：天笠 茂

平成 27 年 8 月の教育課程企画特別部会論点整理を受け、中教審では各教科等と学校種別部会も大詰めを迎え、学習指導要領改訂が目前に迫ってきました。

昨年度の「秋のセミナー」では「アクティブ・ラーニング」を取り上げ、小・中・高 3 校の先進校による事例発表を踏まえて、アクティブ・ラーニング登場の背景、意義、具体的な方法などについて協議を行いました。

今回は次期学習指導要領実現の鍵を握る「カリキュラム・マネジメント」を取り上げ、文部科学省の担当室長をお招きし登場の背景やカリキュラム・マネジメントが果たす役割を語っていただいた上で、先進校の事例発表とその学校にかかわってきた本学会員の解説を踏まえ、学校としてどう取り組んでいけばよいのか、共に考えます。

日本カリキュラム学会の社会貢献的行事として、学会員にかかわらず、全ての学校関係者及び教職を目指す学生・院生、報道機関関係者、研究者に公開いたします。お誘い合わせの上、奮ってご参加下さい。

開催日時：平成 28 年 11 月 5 日（土） 14 時～17 時（受付 13 時 30 分～）

開催場所：お茶の水女子大学（教室は決定次第学会ホームページでお知らせします）

【最寄り駅は東京メトロ丸の内線の茗荷谷駅です。正門からお入り下さい。】

参加費用：無料（事前申込みの必要はありません）

発表内容：学習指導要領実現に向けカリキュラム・マネジメントが果たす役割とは

解説：天笠茂（千葉大学教授）（30 分）

学校はカリキュラム・マネジメントをどう進めていくか

①上越市立大手町小学校

解説：天笠茂（千葉大学教授）

②横浜市立南高等学校附属中学校

解説：村川雅弘（鳴門教育大学教授）

③金沢大学附属高等学校

解説：田村知子（岐阜大学准教授）

司会進行：西岡加名恵（京都大学准教授）・吉富芳正（明星大学教授）

記録：黒田拓志（香川大学教育学部附属小学校）

---

---

## 事務局からのお知らせ

---

---

### 1. 寄贈図書一覧（2016年3月7日～2016年6月13日到着分）

	著者名	タイトル	出版社等	発行日	受領日
1	浅沼 茂・奈須正裕	カリキュラムと学習過程	放送大学教育振興会	2016/3/20	2016/3/7
2	田中耕治(編著)	グローバル化時代の教育評価改革—日本・アジア・欧米を結ぶ—	放送大学教育振興会	2016/2/25	2016/3/22
3	豊田ひさき	東井義雄の授業づくり—生活綴方的教育方法とESD—	風媒社	2016/3/21	2016/3/22
4	田村知子・村川雅弘・吉富芳正・西岡加名恵(編著)	カリキュラムマネジメント・ハンドブック	ぎょうせい	2016/6/1	2016/5/26
5	八尾坂修・片山紀子・原田かおる	教師のためのコーチング術	ぎょうせい	2016/5/10	2016/6/2
6	奥村好美	<教育の自由>と学校評価—現代オランダの模索—	京都大学学術出版会	2016/3/30	2016/6/13

### 2. 平成28年度（2016年度）分会費納入のお願い

今年度分の年会費が未納の会員の方は、納入をお願いします。8月15日時点での2016年度会費の納入率は70.9%です。納入促進に会員のみなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

会費納入状況につき、ご不明の点がございましたら、ご遠慮なく（株）国際文献社内・日本カリキュラム学会会員窓口までお問い合わせください。

（年会費：一般 8,000円、学生 5,000円、団体 10,000円）

**【 入・退会、年会費納入、会員 web 管理、会報発送等各種問い合わせ先 】**

〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター（株）国際文献社内

日本カリキュラム学会会員窓口

Tel : 03-5389-6213 Fax : 03-3368-2822

E-mail : [jscs-post@bunken.co.jp](mailto:jscs-post@bunken.co.jp)

**【 上記以外の学会運営に関する問い合わせ先 】**

〒606-8501

京都市左京区吉田二本松町

京都大学高等教育研究開発推進センター 松下佳代気付

日本カリキュラム学会事務局

E-mail : [jscs@nifty.com](mailto:jscs@nifty.com)

**【 学会ホームページ 】**

URL : <http://jscs.b.la9.jp/>